平成26年度 社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会事業報告
～ 岡垣町民でつくる福祉のまちをめざして ～

事業概要

今日、急激な少子高齢化の進展や社会経済の変化の中で、核家族化や住民相互の社会的つながりの希薄化により、人々の生活の基盤である地域社会の環境が大きく変容しています。2015年は、団塊の世代が前期高齢者になる時期にあたり、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の増加にともなう地域の福祉課題や生活課題は多種多様化し、法律や制度に基づく公的なサービスだけでは対応が困難な場合も多く、地域における見守り活動や、支えあい体制の構築、そして隣近所や自治区等の「絆」の再構築が喫緊の課題になっています。

こうした社会情勢の中で、国はたとえ高齢になっても、障がいがあっても、できる限り住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるよう地域包括ケアシステムなどの基盤を整備し、地域での自立支援や「施設・病院完結型」から「地域完結型」への移行が進められています。

このような状況の中、地域福祉を推進する中核的な役割を担う社会福祉協議会（以下「社協」という。）は、中・長期の展望に立った地域福祉活動を展開するため、第３次地域福祉活動計画に基づく事業の展開と、第３次地域福祉活動計画の基本理念である「岡垣町民でつくる福祉のまちをめざして」の将来像を具現化、補足・補完する「岡垣町民でつくる福祉のまちづくり計画」に基づく事業を実施しました。

介護保険法や障害者総合支援法に対する取り組みについては、居宅介護支援事業、訪問介護事業を運営するとともに、職員の資質向上のための研修の実施や他団体の研修等への参加など、利用者本位の福祉サービスの提供に努め、高齢者や障がい者が自立した生活ができるように支援しました。

基本理念

社協が取り組むべき事業を明確にし、各種団体や地域住民が行う活動への支援や協力体制を強化することにより、地域住民が主体性をもち、自らが地域福祉の担い手として参加できる地域づくりによって、「岡垣町民でつくる福祉のまちをめざして」の実現に努めました。

☆ 基本目標

1. **ひとづくり ～ふれあい、思いやりの意識を育む～**
2. **地域づくり ～見守りあいや支えあいの関係を築く～**
3. **環境づくり ～福祉サービスを活かし、地域で自立して暮らす～**
4. **支援体制づくり ～協働と連携で地域を支える～**

☆ 地域福祉を進めるための取り組み

1. ひとづくり ～ふれあい、思いやりの意識を育む～

住民による自主的な活動が、それぞれの地域の実情に合った活動へと結びつくように、子どもから高齢者まで、一人でも多くの住民が地域福祉に関心を持てるような取組みや情報の発信に努めました。また、「自らが地域づくりの担い手である」という意識を育むとともに、地域で核となる人材の育成に努めました。

（1）福祉教育の充実

子どもから高齢者まで、一人でも多くの住民が自分の暮らす地域に関心をもち、お互いの存在を認めあい、ふれあいや思いやりの意識を育むことで、具体的な地域福祉活動への参加を促進することを目的として、福祉教育の充実を図りました。

①福祉体験講座

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的として、小・中学校等と連携し、福祉教育を実施しました。

○福祉体験講座（車いす体験、アイマスク・点字体験、介護教室等）

学　校

平成２６年１０月１７日	海老津小学校４年生	９３人
平成２６年１０月２２日	海老津小学校４年生	９３人
平成２６年１０月２９日	戸切小学校４年生	１２人
平成２６年１１月１４日	戸切小学校４年生	１２人

地　域

平成２６年１０月６日	松ヶ台東区	１９人
平成２６年１１月１５日	公園通り西区ふれあいサロン	２１人

○福祉教育読本「ともに生きる」配布

町内小学５年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として配布しました。（福岡県社協作成）　配布数　３３１冊

②認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政との協働により開催しました。（社協開催：２地区・５団体等：２５６人）

平成２６年6月6日	イオンスーパーセンター岡垣	３８人
平成２６年7月１４日	イオンスーパーセンター岡垣	２１人
平成２６年9月１８日	吉木２老人クラブ	２５人
平成２６年9月２４日	上戸切老人クラブ	２５人
平成２６年１１月１２日	岡垣町ボランティア連絡協議会	７６人
平成２６年１１月１３日	龍王団地区	２３人
平成２７年1月２２日	東山田区	３３人
平成２７年3月３０日	戸切学童クラブ	１５人

③認知症ケア地域推進事業

これからますます増加することが推計されている認知症につい正しく理解し、認知症になった人を地域全体で見守る体制づくりが必要とされています。福祉課と連携し、住民を始め商店や児童等を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。今後も、商店や学校等に認知症サポーター養成講座の実施や、お互いさま命のネットワーク活動の中で、認知症になっても住み続けられる地域づくりを構築するため、関係機関団体等と連携して、認知症徘徊模擬訓練等の開催を進める必要があります。

（2）地域人材の育成

一人でも多くの住民が自分の暮らす地域に関心をもち、地域での福祉活動に取り組むきっかけづくりとなる講座や研修会を実施し、自らが地域づくりの担い手であるという意識をもって主体的に行動する人材を育成しました。

①地域人材育成講座・研究会

住民自らが「地域づくりの担い手である」という意識を持ち、地域における見守りや支えあい活動を主体的に行う人材の育成を目的として、いこいの里福祉大学（全１０講座）を開催しました。

受講生　いこいの里福祉大学　　２０１人（全自治区から参加）

いこいの里福祉大学

○第１回（開講式、オリエンテーション）　平成２６年６月１４日　参加者　１５５人
　講演「地域包括ケアシステム～見守りと支え合いの必要性」
　講師　九州大学 名誉教授 小川 全夫 氏
　講演「これまでのマップ作成の経過」
　講師　福岡県まちづくり専門家 十時 裕 氏、社協職員
○第２回 平成２６年６月２８日　参加者 １４３人
　講演「支え合いマップ」
　講師　福岡県まちづくり専門家 十時 裕 氏、社協職員
　寸劇「地域を支える見守り活動と生活支援」
　出演　いこいの里一座、民間事業所（やっぱぁ～岡垣、セブンイレブン、郵便局）
○第３回 平成２６年７月５日　参加者 １５６人
　講演「施設から見る地域福祉」
　講師　介護老人福祉施設恵の家 施設長 花田 利生 氏
　講演「病院から見る地域福祉」
　講師　遠賀中間医師会おかがき病院 院長 竹之山 利夫 氏
○第４回 平成２６年７月１２日　参加者 １４２人
　講演「大牟田市の認知症の取り組み」
　講師　大牟田市認知症ケア研究会 代表 大谷 るみ子 氏
　体験「認知症疑似体験」
　講師　福岡県社会福祉協議会 県民サービス部 介護実習課職員
○課外授業 平成２６年７月１２日　参加者 ２３人
　井上周防ゆかりの地を歩こう（ウォーキング）
○第５回 平成２６年８月２日　参加者 １２８人
　講演「地域で暮らす拠点とは～地域密着型サービスの動向」
　講師　株）ヘルスケア経営研究所 副所長 酒井 真由美 氏
　講演「コミュニティケアについて」
　講師　にのさかクリニック 院長 二ノ坂 保喜 氏
○第６回 平成２６年８月９日　参加者 １２８人
　講演「生活を支える身近な仕組み」
　講師　公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート福岡支部
　講演「これからどうなる“年金”」
　講師　日本年金機構 八幡年金事務所 職員
○第７回 平成２６年８月３０日　参加者 １３６人
　講演「老前整理」
　講師　㈱くらしかる代表 坂岡 洋子 氏
○第８回 平成２６年９月６日　参加者 １０６人

講演「岡垣町版地域包括ケアシステムへ～高齢者福祉計画ワークショップ」
講師　福岡県まちづくり専門家 十時 裕 氏、社協職員、福祉課職員
○第９回 平成２６年９月１３日　参加者 １２５人
映画「いのちがいちばん輝く日～溝渕監督と語る死生観」
講師　映画監督 溝渕 雅幸 氏
○第１０回 平成２６年９月２７日（閉講式）　参加者 ８９人
講演「受講生でつくる報告書～３年間をふり返って」
講師　福岡県まちづくり専門家 十時 裕 氏、社協職員
講演「岡垣町の地域福祉のあり方の方向性」
講師　九州大学 名誉教授 小川 全夫 氏

（３） ボランティア活動の推進

一人でも多くの住民がボランティア活動に参加できるよう、若い世代がボランティア活動に関心をもつきっかけづくりや、団塊の世代がこれまで培ってきた知識や経験を活かして活躍できる環境づくりに努めました。

①福祉ボランティアの拠点機能の充実

岡垣町社会福祉協議会ボランティアセンターとして、岡垣町ボランティア連絡協議会等と協力し、福祉ボランティア活動を支援しました。

②ボランティアへの支援

社協に登録している福祉ボランティア16団体に対し、岡垣町ボランティア育成・支援事業補助金交付規則（岡垣町）に基づき補助金を交付するとともに、福祉ボランティア活動を支援しました。

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会
平成２６年１１月２２日　水巻町　中央公民館　４２人
講演「安心して地域で老いるために」
講師　宅老所よりあい 稲田 学 氏
○ボラ協だよりの発行
年９回（全戸配布）　１２４，２００部
○ふくおか“きずな”フェスティバル
平成２７年２月１５日　春日市　クローバープラザ　４４人
講演「新しいふれあい社会の創造～ボランティアのこれから」
講師　さわやかふくし財団 会長 堀田 力 氏
分科会発表（高齢者・障害児者・災害・子育て支援・青少年健全育成：5分科会）
「配食サービスに関わるボランティア」
発表：ボランティア連絡協議会 会長 佐々木 征子 氏

③ボランティアの養成

現行の取り組みを活性化し、新たなボランティア活動の創設（ボランティアポイント制度等）等、地域の生活に密着した取り組みを町と協議しました。

④ボランティアリーダーの養成・支援

地域福祉の推進においてボランティアの必要性が高まっており、会員の意思の疎通を図り中心となって活動するリーダーの支援をしました。

2．地域づくり　～見守りあいや支えあいの関係を築く～

地域福祉を進めていくために、身近な地域において、日頃から見守りあいや支えあい等、住民同士の「絆」を築くことが大切です。誰もが安心して住み慣れた地域で暮らせることが出来るように、住民の福祉活動への主体的な参加を促進しました。

（1）セーフティネットの推進・支援

社協は、各自治区を単位とした見守り・支えあい活動を推進するとともに、行政や関係機関・団体間の連携強化を図り、各自治区のセーフティネットを町内全域へ広げるための支援に取り組みました。

①　町内全域へお互いさま命のネットワークの推進

お互いさま命のネットワークを取り組んでいない地区に出向いて説明会等を実施し、本年度は52地区が活動しました。

未活動地区　：　3地区

上畑、公園通り東、海老津風の森

②お互いさま命のネットワークの活動への支援

○平成２６年度お互いさま命のネットワーク活動助成金交付

お互いさま命のネットワーク活動地区に対し、活動についての相談、情報提供や活動助成金を交付し支援しました。また、関係機関・団体、事業所等と連携することにより、重層的な高齢者等の見守りのネットワーク活動に取り組むとともに、「お互いさま命のネットワーク活動シンポジウム」で、ネットワーク活動の取り組みについて討論会を実施しました。

活動助成金交付地区　：　52地区

湯川、波津、原、内浦、手野、新松原、三吉団地、三吉、吉木、高塚、高倉、上高倉、元松原、西黒山、東黒山、糠塚、山田、山田峠、西山田、東山田、南山田、茅原、緑ヶ丘、高尾、旭西、旭中、旭東、旭南、東松原、高陽、百合ヶ丘、鍋田、西高陽、東高陽、南高陽、戸切、戸切百合野、戸切白谷、上海老津、東海老津、新海老津、海老津、野間一、野間二、野間三、野間四、塚原、松ヶ台西、松ヶ台東、公園通り中、公園通り西、龍王団地

○お互いさま命のネットワーク活動シンポジウム

平成２６年１０月２６日　岡垣町　中央公民館　１５０人

寸劇「地域を支える見守り活動と生活支援」

シンポジウム

コーディネーター：福岡県まちづくり専門家 十時 裕 氏

助言者：九州大学 名誉教授 小川 全夫 氏

登壇者：岡垣町町長　宮内 實生 氏、自治区長会副会長　橋村 魁 氏、民生委員児童委員協議会会長　藤原 一子 氏、吉木郵便局局長　林 伸久 氏、社会福祉協議会会長・職員

町民行動宣言：お互いさま命のネットワーク委員会委員

③岡垣町お互いさま命のネットワーク委員会の設置

お互いさま命のネットワーク活動に関する福祉課題・生活課題の調査・研究、関係機関や自治区相互の情報交換、交流、研修等を行うとともに、社会資源等を活用し、自治区における福祉活動を促進することを目的に、関係機関・団体、事業所代表者で組織するお互いさま命のネットワーク委員会を設置しました。また、委員会で住み慣れた地域で自立した日常生活が営まれることができる新たな制度について協議し、委員長からその取り組みについて会長へ答申がありました。

答申内容
① 現状の見守り活動を継承し、向こう三軒両隣の助け合い活動（新たな制度）に取り組む。
② 新たな制度として支え合いマップを活用し、生活支援の実態を「見える化」させ、向こう三軒両隣の助け合いを再生する。
③ 従来の見守り活動と新たな制度を調整・支援する「生活支援コーディネーター」を配置し、社会福祉協議会等の職員を充てる。
④ 全自治区を対象とし、希望する自治区から活動を始め、おおむね５年間を目途に実施する。
⑤ 実施した自治区等の成果を公表していく。
社会福祉協議会では、答申内容を次年度からの事業として検討します。

④災害時の活動支援

社協では、災害時要援護者避難支援プラン全体計画に基づき、要援護者一人ひとりの具体的な支援内容を定める「個別計画」策定に向けて、マップづくりを支援しました。

⑤孤独死・孤立死を出さない見守り活動の支援

自治区長会・民生委員児童委員協議会（以下「民児協」という。）主催で孤独死・孤立死を出さない見守り体制の構築に向けて取り組んでおり、その住民主体の福祉活動を行政（地域づくり課・福祉課）・社協が事務局となり活動を支援しました。

〇ブロック会議
・これまでの取り組みに関する情報共有
・アンケートによる自治区毎の状況把握
・支え合いマップに関する研修
吉木校区　平成２６年７月８日　（中央公民館）１０区・３３人
内浦校区　平成２６年７月１１日（西部公民館）６区・１１人
海老津校区 平成２６年７月１５日（中央公民館）１４区・３２人
山田校区　平成２６年７月１８日（中央公民館）１６区・４６人
戸切校区　平成２６年７月２２日（地域交流センター）４区・１８人

（2）ふれあい交流活動の促進

高齢になっても障がいがあっても、誰もが尊厳を保ち、自立した生活を送ることができるように、住民同士のふれあい交流を促進しました。

①ふれあいサロン活動の促進・支援

地域での連帯感の希薄化や心身の機能の低下により、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位でのふれあいサロン活動を民生委員・児童委員等の関係者と協力して推進しました。また、活動している自治区に対しては、職員の派遣やふれあいサロン活動助成金を交付し活動を支援しました。

ふれあいサロン活動地区　：　４１地区

波津、内浦、手野、新松原、三吉団地、吉木、高塚、高倉、上高倉、西黒山、東黒山、山田、山田峠、西山田、東山田、南山田、茅原、緑ヶ丘、高尾、旭西、旭中、旭東、東松原、高陽、百合ヶ丘、西高陽、東高陽、南高陽、戸切百合野、戸切白谷、新海老津、野間一、野間二、野間三、野間四、塚原、松ヶ台東、松ヶ台西、公園通り中、公園通り西、龍王団地

②子育て支援の推進

自治区長会・民児協が孤独死・孤立死を出さない見守り体制の構築に向けて取り組んでおり、その活動の中で子育て支援も含んだ活動を進めました。

③関係団体との連携によるふれあい交流事業

○ひとり暮らし高齢者のつどい　ゆかいな果樹園（岡垣町）

７５歳以上のひとり暮らしの人の社会参加の促進とふれあい交流を目的に、民児協等の協力のもと、ひとり暮らし高齢者のつどいを開催しました。

平成２６年１０月２７日　山田校区、戸切校区　参加者　１５３人　総数　２２３人

平成２６年１１月１０日　内浦校区、吉木校区、海老津校区
参加者　１３１人　総数２０４人

○在宅介護者のつどい　いこいの里

在宅介護者の心身のリフレッシュ、情報交換、ふれあい交流、こもれびの会会員の増員を目的に、在宅介護者のつどいをいこいの里で開催しました。

平成２６年１１月２６日　参加者　１９人

○障がい者ふれあい交流事業（納涼夏まつり、クリスマス交流会）

納涼夏まつり　いこいの里

町内在住の障がい児・者の社会参加の促進と福祉ボランティアとのふれあい交流を目的に、障がい者団体、福祉ボランティア団体から実行委員を選出していただき、実行委員会形式で納涼夏まつりを開催しました。

平成２６年８月２３日　参加者　３６２人　総数　３９４人

障がい者クリスマス交流会（障がい児含む）　いこいの里

障がい児・者の社会参加の促進とふれあい交流を目的に、障がい者団体、福祉ボランティア団体から実行委員を選出していただき、実行委員会形式で障がい者クリスマス交流会を開催しました。

平成２６年１２月１４日　参加者　６４人　総数１８５人

○おもちゃ図書館

障がいのある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぽぽの会の協力により、毎月第２・４土曜日及び毎週木曜日（第１・３木曜日３歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日　７７日（うち一般開放２２日）

利用者数

障がい者（児）：９４人（延）・乳幼児等：１７３人（延）

家族等　：325人（延）・見学等　9人（延）

○男性料理教室　いこいの里

６０歳以上の男性を対象に高齢者の健康維持の増進と参加者同士のふれあい交流を目的に、岡垣町食生活改善推進会の協力のもと男性料理教室を開催しました。

第１回　平成26年１０月1日　参加者 21人　総数 27人

第2回　平成26年１０月8日　参加者 19人　総数 25人

第3回　平成26年１０月15日　参加者 15人　総数 21人

3．環境づくり　～サービスを活かし、地域で自立して暮らす～

介護保険法や障害者総合支援法等において提供するサービスの質の向上や利用援助の充実を図るとともに、現行の制度内サービスに関する福祉課題の提唱および制度外の在宅福祉サービスの充実を図りました。また、社会福祉協議会の事業やサービス、地域での取り組みについて、わかりやすい情報提供に努めるとともに、様々な生活課題に関する不安や悩みを受け入れ、適切なサービスへとつなぐ「総合福祉相談窓口」を設置しました。

（1）総合的な福祉相談支援体制の整備

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

①心配ごと相談・法律相談の充実

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、心配ごと相談、法律相談を開催しました。

○心配ごと相談（民生委員・児童委員 12回：毎月1回・東部公民館）

心配ごと相談 3件(平成25年度：6件)

○法律相談（弁護士 18回：奇数月1回偶数月2回・いこいの里）

法律相談　９２件(平成25年度：102件)

②総合福祉相談窓口の設置

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅したてびきを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

○総合福祉相談窓口（民生委員・児童委員 24回：毎月2回・いこいの里）

総合福祉相談　１１件（平成25年度 5件）

（2）在宅福祉サービス事業の充実

介護保険法や障害者総合支援法において提供するサービスの質の向上や利用援助の充実を図るとともに、現行の制度内サービスに関する福祉課題の提唱及び制度外の在宅福祉サービスの充実を図りました。

①居宅介護等事業

介護保険制度において、要介護等と認定された高齢者や障害者総合支援法における利用者に対して、質の高いサービスの提供を行うため、職員を対象とした研修会の開催や資格取得のための勉強会などを積極的に行いました。

訪問介護事業では、延利用者数は増加しましたが、軽度の介護保険等認定者であるため収入は微増となりました。

居宅介護支援事業については、12月から3月にかけて入院者等が増えたため、減収となりました。

収入　居宅介護支援事業　　１４，７９８，７２５円（平成25年度：15,050,773円）

　　訪問介護等事業　　４５，１９５，６０４円（平成25年度：43,122,547円）

≪介護保険事業利用状況≫

区分＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
訪問介護事業	57	57	56	59	60	58	56	52	56	57	54	55	677	642
介護予防訪問介護事業	74	74	75	76	73	75	76	74	71	71	70	69	878	821
居宅介護支援事業	96	101	99	101	101	100	101	99	97	95	92	92	1,174	1,216
介護予防支援事業	34	36	34	37	36	35	36	34	34	33	32	31	412	339
延利用者数	261	268	264	273	270	268	269	259	258	256	248	247	3,141	3,018

②障がい者の自立に関する取り組み

居宅介護・重度訪問介護事業では、障がいのある人等がその有する能力に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事の介護、その他の生活全般にわたる援助を行いました。同行援護事業では、常にサービスを提供できる体制を整えています。

≪障害者総合支援法に基づく居宅介護等事業利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
居宅介護等事業（障がい者）	11	11	11	11	9	10	12	11	12	10	9	8	125	101
地域生活支援事業（障がい者）	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	6
同行援護事業（障がい者）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

③短期訪問介護事業

介護保険制度で自立と認定されても支援が必要な人等へ訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）を実施しました。

≪短期訪問介護事業≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
短期訪問介護事業	15	12	8	13	13	12	12	10	11	13	11	12	142	132

④送迎サービス事業

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

≪送迎サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
送迎回数	37	34	37	43	35	39	49	38	34	36	29	42	453	375
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動人員（延）	58	54	48	57	48	50	71	55	50	48	44	52	635	528

⑤入浴サービス事業

在宅の寝たきり高齢者で介護保険サービスを利用することが困難な方を対象に、介護老人福祉施設「恵の家」への業務委託により、入浴サービス事業を実施しました。

≪入浴サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
利用者数	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	8	12
利用回数	5	4	4	5	4	4	3	0	0	0	0	1	30	48

⑥福祉機器貸与事業

福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障がい者等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。

≪福祉機器貸与延台数≫ 延 176台

車いす	131台	ベッド	12台	歩行器（車）	3台
ポータブルトイレ	11台	シャワー椅子 シャワーキャリー	9台	浴槽手すり	2台
入浴用踏み台	0台	エアマット	2台	オーバーテーブル	6台

⑦福祉車両貸与事業

高齢や障がい等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社会福祉協議会が所有する福祉車両（車いす対応）の貸与事業を実施しました。

7回　（平成25年度：2回）

⑧コミュニティ車両貸与事業

ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。

4地区・4団体　51回　（平成25年度：4地区・7団体：57回）

⑨配食サービス事業（町受託事業）

調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週5回（火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日）の253日配食サービス事業を実施しました。

≪配食サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
配食日数	22	23	20	23	19	21	23	21	20	20	20	21	253	253
配食数	2,539	2,645	2,261	2,591	2,058	2,202	2,351	2,134	2,067	1,989	2,014	2,119	26,970	29,220
平均配食数	115	115	113	113	108	105	102	102	103	99	101	101	107	116

⑩地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

地域におけるネットワークの構築や、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材の育成事業と介護予防に資する地域組織（サロンや老人クラブ等）の支援等を実施しました。

17地区56回　延参加者 1，554人

（平成25年度：24地区57回　参加者延 1,446人）

⑪通所型介護予防事業（町受託事業）

高齢者の身体機能・日常生活の活動・社会参加等の生活機能の向上を図り、要介護状態及

び要支援状態となることを予防することにより、住み慣れた地域において、健康で自立した在宅生活ができるように支援しました。

期　間　（前期）平成２６年４月１７日～平成２６年８月８日　　全１６回
　　（後期）平成２６年１０月２３日～平成２７年２月１２日　全１６回

場　所　いこいの里

参加者　二次予防事業対象者（前期）　２５人　　延人数　３７１人
　　（後期）　２３人　　延人数　３３６人

（平成25年度：32回 44人　延人数　622人）

⑫手話通訳者派遣事業（町受託事業）

聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

≪コミュニケーション支援状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H25
利用者数	4	4	4	4	5	3	6	2	4	5	4	3	48	55
派遣者数	3	4	4	4	5	3	5	2	4	5	4	3	46	53

⑬日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

福岡県社協が実施している日常生活自立支援事業を支援するため、日常生活自立支援事業の制度を社協だよりに掲載するとともに関係機関へ周知し、制度の普及に努めました。

日常生活自立支援事業契約者　９人（支援件数延86件）

（平成２５年度：６人　支援件数延５０件）

⑭生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

景気低迷が原因による離職者や母子世帯等で生活に困窮している方の相談と貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、低所得者の自立更生の支援をしました。

相談件数：１４件（平成25年度：27件）

貸付件数：４件（平成25年度：7件）

◎福祉費：１件　263,000円

　内訳（住居の移転等に係る経費：１件）

◎緊急小口資金：２件　200,000円

　内訳（初任給までのつなぎ資金：１件、その他：1件）

◎総合支援資金：１件　575,000円

　内訳（生活支援費：３件、一時生活再建費：２件）

◎教育支援資金：１件　449,000円

⑮法人成年後見事業の取り組みの検討

日常生活自立支援事業の支援で関わりのある社協が引き続き成年後見人等になることで、判断能力が不十分な方から著しく不十分になった方まで、安心と信頼に基づく支援を実施できるよう町と協議しました。成年後見の町長申立件数が１件であるため、始めの取り組みとして、ずっと安心プラン事業を実施し今後検討します。

⑯ずっと安心プラン事業の取り組みの検討

高齢者や障がい者などが安心して生活できるよう、社会福祉協議会が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りサービス・かぎ預りサービス・入退院

時等の支援を平成 27 年度から実施するため、福祉関係団地や施設、自治区へ説明会を実施しました。

⑰あんしんの灯台（あかり）事業の取り組みの検討

在宅で生活する高齢者や障がい者、子ども等の日常生活の安心を確保し、特に夜間の不安を解消するために、町内の医療機関・福祉施設等 24 時間体制の機関と連携し、24 時間 365 日、5 分以内に自宅への訪問や連絡が取れる地域型サービスについて、町と協議しました。始めの取り組みとして、ずっと安心プラン事業を実施し今後検討します。

⑱介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業は、要支援者と二次予防事業対象者向けの介護予防・日常生活支援に資するサービスを総合的かつ一体的に行うため、平成 29 年 4 月までに全ての市町村で開始することとなっています。

行政と連携して、介護予防や生活支援のサポーターを養成し、お互いさま命のネットワーク活動と連動させながら、地域を拠点とした柔軟な取り組みができるよう検討しました。

（3）広報・啓発活動の充実

社協の認知度を高めるとともに、ボランティア活動や地域福祉活動への理解と協力を呼びかけ、住民が必要な情報を必要な時に得られるよう、細やかな情報提供に努めました。また、広報広聴委員会を設置し、第三者の意見を取り入れることで、社協だよりの紙面の充実や必要な情報がいつでも閲覧できるようなホームページの充実を図りました。

①社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数　１２４，２００部（9回　4・5・7・9・10・11・1・2・3月：全戸配布 13,800部）

○広報広聴委員会

住民の情報の共有化による地域福祉の浸透及び住民意思の反映の推進と、広報広聴業務の円滑かつ適正な処理を行うことを目的に広報広聴委員会を設置し、社協だより編集方針と社協だより年間計画を策定しました。

②社会福祉協議会ホームページの充実

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設のＰＲ等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めます。

4．支援体制づくり　～協働と連携で地域を支える～

社協や行政、関係機関・団体、そして住民が、多様化する地域の生活課題等に対応するために、相互に補完し合う支援体制づくりに取り組みました。

（1）行政、関係機関・団体との連携

多様化する地域の生活課題等に対応するために、行政や関係機関・団体と社協が協働・連携し、相互に補完し合う支援体制づくりに取り組みました。

①関係団体との連携強化

障がい者の福祉団体等との連携を図り、地域福祉を推進するため、団体の自主的な活動への支援や助成金を交付するとともに、団体等と連携して会員増員の支援に取り組みました。

○活動等助成金交付

活動が円滑に実施できるように、福祉団体や協力団体へ助成金を交付しました。

≪助成金交付団体≫　１２団体

岡垣町自治区長会、岡垣町食生活改善推進会、岡垣町戦没者遺族会、岡垣町婦人会、遠賀保護司会岡垣分区、岡垣町民生委員児童委員協議会、岡垣町老人クラブ寿会連合会、岡垣町在宅介護者の会「こもれびの会」、岡垣町身体障害者福祉協会、岡垣町手をつなぐ親の会、社会福祉法人はまゆう福祉会岡垣支部、岡垣町母子寡婦福祉会

②社会福祉協議会・行政との定期連絡会の充実

新規事業の取り組みに関することや情報交換、町行政施策との整合を図るとともに、連絡調整会議を開催しました。

③岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

④地域包括支援センターとの連携

認知症高齢者やひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯が孤立することなく、いつまでも地域で安心して生活できるように、岡垣町地域包括支援センターと連携を図りました。

（２）信頼される社会福祉協議会づくり

職員一人ひとりが資質及び専門性の向上に努め、法令の遵守はもちろんのこと、説明責任を果たし、住民から信頼される職員となるように努めました。また、社協は地域の様々な団体から住民の代表として理事・監事・評議員が選出され、共に地域福祉を推進していることから、役員体制の強化に努め、法人全体として信頼される社協づくりを図りました。

①活動財源の確保

社協の活動財源である寄附金、共同募金配分金及び自動販売機手数料等、自主財源確保に努めました。また、社会福祉法人に対する寄附金・共同募金の税制優遇措置についての啓発し、寄附金等の財源確保に努めました。

②共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携、協力し、街頭啓発や共同募金運動の推進に努めました。

募金実績　共同募金　５，５７８，２１４円（平成25年度 5,410,265円）

　　歳末募金　　５１１，７７５円（平成25年度 514,880円）

③社会福祉協議会役員体制の強化

社協の運営強化、役員等への情報提供の強化を図るとともに、研修会等へ参加していただきました。

○福岡県社会福祉大会　　春日市　クローバープラザ

平成２６年１０月２１日　参加者 ８人

講演「『助けて』と言える社会づくりへ～生活困窮者支援の現場から～」

講師　認定NPO法人 抱樸 理事長 奥田 知志 氏

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会役員研修会　遠賀町　ふれあいの里

平成２７年２月８日　参加者 ２８人

講演 支え合いマップによる「福祉のまちづくり」

講師　住民流福祉総合研究所 所長 木原 孝久 氏

④社会福祉協議会事務局体制の強化

職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換

会を開催しました。

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会職員研修会　遠賀町　ふれあいの里

平成２７年２月８日　参加者 ６人

講演「利用者のその人らしい生活支援のために～問題解決力を磨く～」

講師　住民流福祉総合研究所 所長 木原孝久 氏

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会介護事業職員研修会　水巻町　いきいきほーる

平成２７年１月１８日　参加者 ７人

講演「腰痛予防！自宅でできる簡単・セルフ骨盤矯正」

講師　からだ快福クラブ北九州 林 一郎 氏

○社協職員研修会（毎月：原則第２・４木曜日）

国・県・町の福祉関係の動向を把握し、社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、職員の資質向上を図ることを目的として職員研修会を開催しました。

⑤指定管理者としての受託事業の取り組み

いこいの里で福祉事業の実施や社協だより、社協ホームページ、広報おかがき等により啓発し、施設の利用者の増員と利用率の向上に努めました。

いこいの里ふれあい館入浴施設については、平成２２年度の外部評価の結果を踏まえ、「利用者の増員」と「運営経費の削減」に取り組み、自治区や福祉関係団体等、地区で実施しているふれあいサロン等を入浴施設で開催して頂くとともに、毎月のイベントの他にスポットイベント等を実施しました。しかし、類似する民間施設等の利用やコスト削減によるサービスの低下、設備補修にともなう臨時休館の影響もあり、前年度より約１千5百人の減少となりました。

≪いこいの里施設利用状況≫

区 分 ＼ 年 度	平成 26 年度	平成 25 年度
施設利用者（利用率）	106,452 人（58.1%）	107,314 人（57.6%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	21,961 人	21,932 人
浴室施設利用者	40,226 人	41,733 人

５．その他の事業

○社協会長表彰　　いこいの里

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対して、表彰状及び感謝状を納涼夏まつり開催時に贈呈しました。

平成２６年８月２３日

被表彰者３６人・1団体

社会福祉事業特別功労者７人

社会福祉事業協力者２６人

特別表彰（寄附）３人・１団体

○助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。

≪活動助成金交付内容≫

・児童養護施設報恩母の家（交流会等）
・自転車通学生ヘルメット購入費補助
　岡垣中学校４９人、岡垣東中学校６６人
・修学旅行費補助（要保護・準要保護等の児童及び生徒を対象）
　岡垣中学校３９人、岡垣東中学校１８人
　戸切小学校３人、吉木小学校４人、山田小学校２１人、海老津小学校１１人
・特別支援学級運営費補助
　岡垣中学校８人、岡垣東中学校１人
　吉木小学校４人、山田小学校１０人、海老津小学校７人、内浦小学校２人

○歳末たすけあい事業

　在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しました。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	３４人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	５２人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	５１人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	２６人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	９９人
年賀はがきの配布（３０自治区）	１，１８９枚

６．各会議開催状況

① 理事会･評議員会開催状況

＜理事会＞

第1回	5月19日	議案第1号	評議員の選任について
		議案第2号	平成26年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
		議案第3号	平成 25 年度事業報告について
		議案第4号	平成25年度一般会計収入支出決算
		議案第5号	平成25年度収益事業特別会計収入支出決算
第2回	6月1日	議案第6号	会長及び副会長の選任について
		議案第7号	職務代理者の指名について
		議案第8号	常務理事の指名について
第3回	9月29日	議案第9号	評議員の選任について
		議案第10号	平成26年度一般会計補正予算（第1号）
第4回	2月27日	議案第11号	定款施行細則の一部を改正する細則
		議案第12号	職員の再雇用に関する規程の制定について
		議案第13号	事務局規程の一部を改正する規程

		議案第14号	就業規則の一部を改正する規則
		議案第15号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第16号	給与規程の一部を改正する規程
		議案第17号	経理規程の全部を改正する規程
		議案第18号	職員の再雇用に関する要綱の制定について
		議案第19号	ずっと安心プラン事業実施要綱の制定について
		議案第20号	岡垣町「食」の自立支援事業受託事業実施要綱の制定について
		議案第21号	お互いさま命のネットワーク活動助成金交付要綱の一部を改正する要綱
		議案第22号	障がい者及び高齢者送迎サービス事業実施要綱の一部を改正する要綱
		議案第23号	平成26年度一般会計補正予算（第2号）
		議案第24号	平成26年度収益事業特別会計補正予算（第1号）
第5回	3月27日	議案第25号	給与規程の一部を改正する規程
		議案第26号	平成 26 年度一般会計補正予算（第３号）
		議案第27号	平成27年度事業計画について
		議案第28号	平成27年度福祉基金の取り崩しについて
		議案第29号	平成27年度予算

＜評議員会＞

第1回	5月19日	議案第1号	平成25年度事業報告について
		議案第2号	平成25年度一般会計収入支出決算
		議案第3号	平成25年度収益事業特別会計収入支出決算
第2回	5月27日	議案第4号	理事の選任について
		議案第5号	監事の選任について
第3回	9月29日	議案第6号	平成26年度一般会計補正予算（第1号）
第4回	2月27日	議案第7号	平成26年度一般会計補正予算（第2号）
		議案第8号	平成26年度収益事業特別会計補正予算（第1号）
第5回	3月27日	議案第9号	平成26年度一般会計補正予算（第3号）
		議案第10号	平成27年度事業計画について
		議案第11号	平成27年度予算